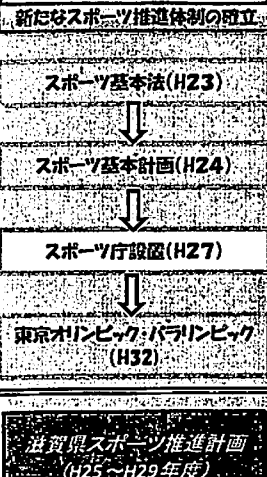


## 国の動向



### ① 学校体育の充実

## めざす姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現

1 自ら行うスポーツ活動の充実

2 次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実

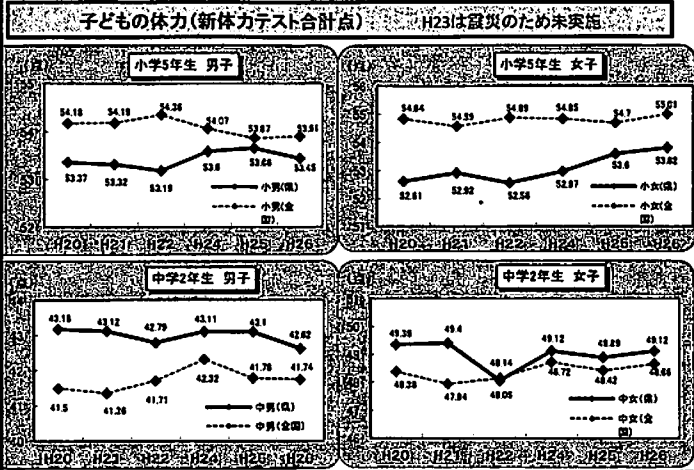
3 スポーツ環境の充実

4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化

5 滋賀の特性を活かしたスポーツの推進

平成36年(2024年)国体・全スポ大会開催を契機にさらなるスポーツ施策の推進

## 滋賀県の現状



出典：文部科学省「全国体力・運動能力等調査」

## 滋賀県の取り組み

### 子どもの健やかな体を育む取り組み

#### 子どもを育てる方向

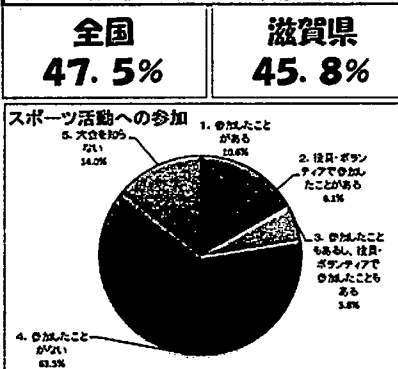
- 1 幼児期の運動遊びを促進する
- 2 子どもが進んで運動遊びに取り組めるようにする
- 3 教員の指導力を向上させる
- 4 学校組織全体の取組にする
- 5 家庭・地域での運動の機会を充実させる

#### 運動遊びの価値



### ② 生涯スポーツの振興

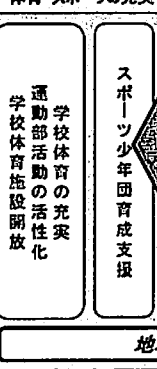
#### 成人の週1回以上の運動・スポーツの実施状況(H24年度)



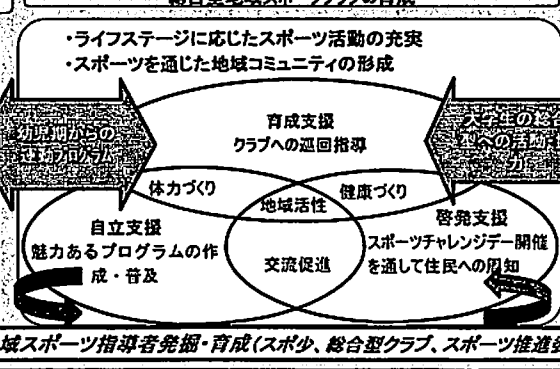
#### 課題

- ・全国平均より低い成人の運動・スポーツ実施率
- ・20~30代女性、50代男性に少ない運動・スポーツ機会
- ・全国より少ないスポーツ観戦者数
- ・総合型地域スポーツクラブの自立
- ・地域スポーツ指導者の質的向上
- ・滋賀の自然を活かしたスポーツの一層の充実
- ・スポーツ団体・大学・企業等との連携

#### 体育・スポーツの充実



#### 総合型地域スポーツクラブの育成



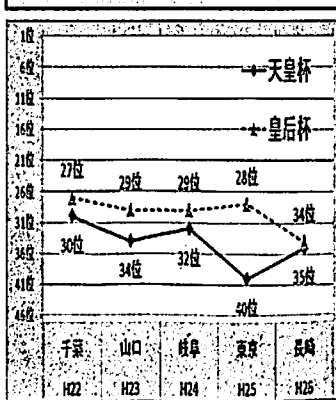
#### 滋賀の特性を活かしたスポーツの推進

- ・関西ワールドマスターズゲームズ2021の開催(滋賀県にて競技開催予定。)
  - ・レイクサイドマラソン等のスポーツイベントの充実
  - ・湖上スポーツの推進(ボート、ヨット、カヌー等)
  - ・琵琶湖周辺等を活用したスポーツの推進(ジョギング、サイクリング、ウォーキングの啓発と環境の充実)
- 地域と大学の連携

地域スポーツ指導者発掘・育成(スポ少、総合型クラブ、スポーツ推進委員等) スポーツボランティアの育成

### ③ 競技スポーツの振興

#### 本県の競技力(天皇杯・皇后杯順位の推移)



#### 滋賀県競技力向上基本計画(平成26年度策定)



平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年~
10年前	9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開演年	開演後~
長崎	秋山	岩手	豊田	福井	鹿児島	茨城	三重	栃木	佐賀	滋賀	
滋賀県競技力向上対策本部											
準備期			充実期			躍進期			持続期		
強化拠点の構築			アスリートの育成			アスリートの実力向上			競技水準の定着		
指導者の確保			躍進期の選手育成を支える指導者の確保			強化スタッフ体制の確立					
国体目標得点:1,000点			国体目標得点:1,200点			1,300点			1,400点		
国体目標順位:20位以内			国体目標順位:10位以内			10位以内			5位以内		
インター入員数:30			インター入員数:40			50			60		
計画見直し			計画見直し			計画見直し			計画見直し		
100			100			100			100		

スポーツ振興特別委員会資料  
平成 27 年(2015 年)6 月 19 日  
教育委員会事務局スポーツ健康課

## 1 付議事件に係る関係部局の取り組みについて (2) スポーツ振興について

### 「関西ワールドマスタースゲームズ 2021」滋賀県開催競技（種目）の検討状況について

#### 1 滋賀県開催希望調査について

- ・県内競技団体へは 3 月 10 日～4 月 17 日に、市町へは 3 月 17 日～4 月 30 日に実施した。
- ・現在、競技団体・市町へのヒアリングを行い、滋賀県実施競技（種目）のマッチングを進めている。

#### 2 市町・競技団体へのヒアリングによる状況について

##### (1) 競技団体と市町の意向を踏まえ開催を希望する競技（種目）

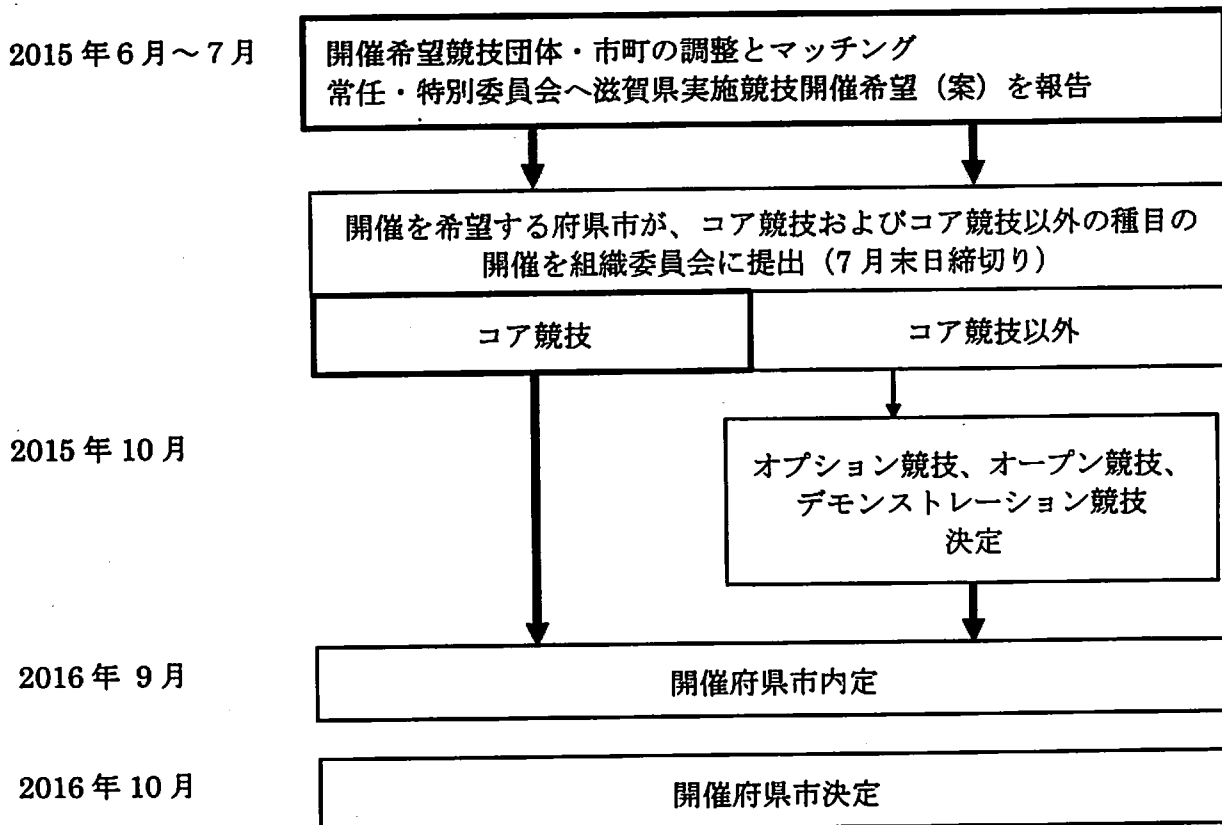
- ①コア競技【4 競技】……………陸上（10k mロードレース）（彦根市）  
カヌー（ドラゴンボート）（大津市）  
オリエンテーリング（ロング）（高島市）  
ボート（大津市）

- ②コア以外の競技【1 競技】……ソフトテニス（長浜市）

##### (2) 今後調整を進める競技（種目）

- ①コア競技【3 競技】……………カヌー（マラソン・スプリント）・ホッケー  
・オリエンテーリング（スプリント）
- ②コア以外の競技（種目）【8 競技】……野球（軟式野球）・弓道・パドルテニス・スポーツチャンバラ  
・フリーピンポン・自転車・ソフトボール・トライアスロン

#### 3 本県実施競技（種目）開催希望にかかる今後の日程



## 1 付議事件に係る関係部局の取り組みについて

### (2) スポーツ振興について

#### プロスポーツ等との連携とスポーツ交流による地域活性化について

### 1 県における位置づけおよび取組

#### (1) 「滋賀県基本構想」(平成27年3月策定)での位置づけ

##### 第1章 長期ビジョン編

##### 第3 基本理念と5つの目指す姿

##### 2 5つの目指す姿

##### (2) 「地域の活力」

- ④ 誰もが日常的に文化・スポーツに親しみ、交流を深め、地域が創造的な活力に満ちています。

##### 第2章 重点政策編

##### 6 「文化とスポーツの力」を活かした元気な滋賀の創造

- すべての県民が日常的にスポーツを「する」、「みる」、「支える」ことができるよう、地域における運動・スポーツ活動を充実させるとともに、スポーツ環境の充実やプロスポーツチームとの連携を推進し、地域の活力を向上させます。

#### (2) 「新しい滋賀の魅力をつくる文化・スポーツ戦略」(平成27年3月策定)での位置づけ

##### 戦略1 東京オリンピック・パラリンピックで元気な滋賀づくり

##### 2 滋賀ゆかりのトップアスリート等と県民との交流機会の創出

- 滋賀ゆかりのオリンピック・パラリンピアンや本県を本拠地とするプロスポーツチームなどのトップアスリートを「しがスポーツ大使」に任命し、地域の運動会や子どもスポーツ体験教室等で県民と交流する機会を創出するとともに、滋賀のスポーツの魅力発信を進めます。

##### 戦略3 県民が元気になるスポーツ振興と国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催

##### 1 競技力向上と世界で活躍する滋賀のトップアスリートの育成

- 「しがスポーツの子」として、本県を拠点として活躍する「滋賀レイクスターズ」(バスケット)や「MIOびわこ滋賀」(サッカー)、「東レアローズ」(バレー)といったスポーツチームによるトップレベルの試合を、子どもたちが観戦する機会を創出します。

##### 6 プロスポーツ等との連携とスポーツ交流による地域活性化

- 本県におけるトップレベルのスポーツの「みる」機会を充実することにより、県内外から多くの観戦客を惹きつけ、地域活性化を図るため、スポーツチームへの効果的な支援を行うとともに、「Jリーグ参入の可能性を検討します。

### (3) 今年度取組予定の県事業

- しがスポーツ大使
- しがスポーツの子
- スポーツ情報総合発信サイト「(仮称) しがスポーツナビ!」の構築・運営
- その他(県広報誌での掲載、人権啓発活動での連携等)

## 2 滋賀レイクスターズとの連携について

### (1) 新リーグ設立等の背景および経過

- 男子2リーグ併存状態の解消等が進まないことから国際試合に出場できなくなった日本バスケットボール界において、男子2リーグの統合等の改革に向けて、平成27年1月に国際バスケットボール連盟(FIBA)がタスクフォースを設置し、平成27年6月までに改革方針をまとめることとされた。

月日	経過	月日	経過
3/4(水)	新リーグ参加基準決定	4/30(水)	新リーグ入会申込期限
3/17(火)	川淵氏、知事、草津市長訪問		審査書類提出期限
3/25(水)	新リーグ3階層の基準決定	6/2(火)	新リーグ入会チーム決定
4/1(水)	新リーグ運営法人設立 (理事長 川淵三郎)		入会申込47 入会決定43、入会保留4
4/3(金)	入会申込受付開始 →滋賀レイクスターズ 入会申込	(6月末)	自治体支援文書提出リミット)
		7月末	所属リーグ(3階層のチーム)決定

### (2) 新リーグの概要

- 新リーグは3層構造(1部、2部、3部)
- 2016年(平成28年)10月開幕

#### 【主な入会基準】

- ホームアリーナおよび練習場を確保していること。
- 健全運営できる財務体質であり、人事組織、ガバナンス体制が確立されていること。

#### 【トップリーグ(1部・2部)の主な要件】

- ホームタウンの地方自治体の文書での支援表明が得られること。
- ホームアリーナについて次の要件を満たしていること。
  - ・ 年間試合数8割程度のホームゲームを開催できるホームアリーナを確保していること。  
(今後完成予定のアリーナをホームとする場合は、その計画を具体的に提示することとし、今回の1部・2部決定においては、2018年シーズン開始(平成30年秋)までに着工予定のアリーナのみを考慮)
  - ・ 収容人数について、1部は5,000人、2部は3,000人を目標とする。
  - ・ 交通の利便、ファンの集まりやすい立地であることが望ましい。

- ◇ 県は、ホームタウンとして、自治体支援文書の提出を求められており、その対応を検討していく。

# 東京オリンピック・パラリンピック事前合宿等の誘致について

## 1 これまでの取組

市町・競技団体・大学と連携し、本県のポテンシャルを活かした効果的な誘致活動を展開するための基礎資料の収集を行うとともに、誘致のためのツールを作成。

### (1) 誘致のための調査研究

- ① 庁内ワーキングや市町・競技団体と合同による先進地調査や研究
  - ・ワーキングによる東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を活かす取組の提案。
  - ・市町や競技団体と合同で先進地視察を実施し、事前合宿誘致のノウハウなどを研究。
- ② 大学コンソーシアムによる調査事業  
環びわ湖大学・地域コンソーシアムに委託して、本県の合宿誘致可能性を調査。
- ③ 意向調査（市町・競技団体・大学）の実施  
合宿誘致の意向について、市町、競技団体、県内大学を対象に意向調査を実施。結果は誘致ターゲットの絞り込みなどに今後活用。

### (2) 誘致のためのツール作成

各国のオリンピック委員会や中央競技団体に配布する誘致のツールとして、英語版のパンフレットを1万部作成（3月）。

### (3) 視察の状況

3月下旬に、イギリスのオリンピック委員会が県立琵琶湖漕艇場と近隣の宿泊施設を視察。

## 2 今年度の誘致活動の展開

外部の専門機関の知見も活用しながら、琵琶湖をはじめとする本県のスポーツ資源を有効に活かすとともに、スポーツに加え経済や観光など、今後本県との交流発展が期待される国（地域）・競技にターゲットを絞りつつ、本格的な誘致活動を展開していく。

### (1) 誘致活動

- ① 外部専門機関のコンサルティングによる効果的な誘致活動  
外部の専門機関に委託し、ア 将来の経済効果も見据えた誘致ターゲット（国・競技）の調査選定、イ アクションプログラム（実施計画・工程表）の提案、ウ プロモーション（誘致）活動の企画・実施などの総合的なコンサルティング業務を実施し、効果的な誘致活動を展開する。
- ② 市町・競技団体・大学等と連携した誘致活動
  - ①のコンサルティング業務と連動させながら、庁内のプロジェクトチームや、市町・競技団体・県内大学との合同勉強会における検討や誘致活動を展開する。

### (2) 情報発信

- ① 滋賀ゆかりのオリンピック・パラリンピアン等と連携した本県独自の情報発信  
本県ゆかりのオリンピックやパラリンピアンが出演する動画（英語字幕付）を作成し、海外でのプロモーション活動のツールとして活用。また、新たに構築するスポーツ情報総合発信サイト「しがスポーツナビ！」でも、動画とパンフレットの情報配信を行う。
- ② 組織委員会等が提供する情報発信ツールの活用  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が作成する「事前キャンプ候補地ガイド」や全国知事会が今年9月に公開を予定している「スポーツ施設データベースサイト」に県内のスポーツ施設等の情報を登録し、国際的な情報発信を行う。

### (3) ラグビーワールドカップ

2016年春以降詳細な選定プロセスが発表されるラグビーワールドカップ2019 キャンプ地についても、誘致に向けて検討を進める。

1 付議事件に係る関係部局の取り組みについて

(2) スポーツ振興について

滋賀県における障害者スポーツ施策について

1. 現状と課題

- 選手層の高齢化に伴い、県大会の参加者が減少傾向にあり、とりわけ若年層の参加者が少ない。
- 障害者がスポーツをする環境として、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮され、運営面や指導面等において工夫されている施設が、県立障害者福祉センターなどに限られている。
- 指導者の多くは、障害者自身か、日頃から障害者に直接関わる人であり、身近な地域で障害者スポーツを指導・支援する体制が十分とは言えない。



- 障害のあるなしにかかわらず、身近な地域で気軽に活動できるためのきっかけや場づくりなどの環境整備が必要。
- 地域で楽しむスポーツから全国レベルの競技スポーツまで、それぞれの場面、障害に配慮した指導・支援ができる指導者を養成・確保していく必要。

2. 県の取り組み

(1) 県による障害者スポーツ大会の開催

① 滋賀県障害者スポーツ大会(県大会)

- ・対象競技は、陸上、水泳、卓球、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、サッカー、バスケットボール、ソフトボール、バレーボール

10 競技

- ・県大会は、全国障害者スポーツ大会の個人競技予選を兼ねており、成績優秀者の中から次年度の全国大会出場者を選定する。
- ・滋賀県、滋賀県教育委員会、開催市町と滋賀県障害者スポーツ協会の共催。

【参加者数の推移】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
陸上	299	292	238	244	220
水泳	65	58	64	54	62
卓球	180	171	192	173	150
フライングディスク	278	229	195	186	187
アーチェリー	62	54	47	55	56
ボウリング	87	83	71	75	55
サッカー	53	52	82	50	43
バスケットボール	40	38	68	33	32
ソフトボール	45	57	119	79	84
バレーボール	41	27	36	31	31
計	1150	1061	1112	980	920

※平成24年度、サッカー・バスケットボール・ソフトボールは2回大会を開催

## ②スペシャルスポーツカーニバル

- ・知的障害者（児）を対象とした県大会（運動会）であり、知的障害者（児）相互の親睦と体力の向上を図るとともに、県民の知的障害者（児）に対する理解と協力を深めることを目的とする。
- ・実施競技は、徒競走、玉入れ、800m走、1500m走、支部対抗リレー、ダンスなどがある。
- ・県内の知的障害者スポーツイベントとして、昭和57年以来30年以上の歴史がある。

### 【参加者数の推移】

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
653	613	523	547	555

### 【参考：障害者手帳所持者数】

障害種別	平成23年度	平成24年度	平成25年度
身体障害	50,774	51,906	53,198
知的障害	10,749	11,077	11,462
精神障害	6,301	6,656	7,293
合計	67,824	69,639	71,953

## (2) 全国障害者スポーツ大会への選手派遣等

### ①経緯

- ・昭和40年に国体開催地の岐阜県で「第1回全国身体障害者スポーツ大会」が開催。以降、国体開催地で毎年開催。
- ・平成4年に東京都で「第1回全国知的障害者スポーツ大会」が開催。以降、各都道府県持ち回り（国体開催地とは別）で毎年開催（滋賀県での開催なし）。
- ・平成13年に上記2つの大会が統合された「第1回全国障害者スポーツ大会」が宮城県で開催。以降、国体開催地で毎年開催され、平成27年は和歌山県で第15回大会が開催予定。

### ②開催場所・日程等

開催地：国民体育大会の開催地の都道府県において開催

※滋賀県では昭和56年に第17回全国身体障害者スポーツ大会を開催

競技施設：原則として国民体育大会の会場を使用

開催日程：毎年10月中旬～11月上旬（3日間）で開催

### ③参加者・実施競技

参加者数：選手（身体・知的・精神）：約3,500人、役員：約2,000人

競技種目

個人種目：陸上、水泳、卓球、フライングディスク（以上身体・知的）、アーチェリー（身体）、ボウリング（知的）

団体競技：車椅子バスケットボール、バスケットボール（知的）、グランドソフトボール（視覚）、ソフトボール（知的）、フットベースボール（知的）、バレーボール（聴覚・知的・精神）、サッカー（知的）

#### ④選手団の派遣について

- ・開催地への出発日に滋賀県選手団の結団・壮行式を開催。
- ・全国障害者スポーツ大会中は、大会前日に行われる公式練習から参加。監督・コーチ・総務スタッフが移動日・練習日を含む6日間の期間中、生活面・競技面などから選手をサポート。
- ・帰県時には滋賀県選手団の解団式を開催。
- ・団体競技については、近畿予選会に出場し優勝すると全国大会の出場権が得られるため、優勝したチームを全国大会に派遣する。

#### 【本県の参加者数の推移および成績】

年度	大会	参加者数	メダル数				大会新記録	自己新記録	団体競技出場実績
			金	銀	銅	計			
H26	第14回 長崎	38	14	17	5	36	0	14	グランドソフトボール (12)
H25	第13回 東京	40	13	10	9	31	3	21	ソフトボール (14)
H24	第12回 岐阜	25	15	9	10	34	1	19	
H23	第11回 山口	26	7	8	9	22	1	14	
H22	第10回 千葉	24	11	9	5	25	5	21	
H21	第9回 新潟	25	13	12	9	34	3	18	
H20	第8回 大分	25	24	6	3	33	3	21	
H19	第7回 秋田	26	12	6	9	27	2	29	
H18	第6回 兵庫	32	9	15	19	43	1	24	
H17	第5回 岡山	25	15	12	3	30	4	19	
H16	第4回 埼玉	24	17	9	10	36	4	27	

#### ⑤スポーツ選手の育成

全国障害者スポーツ大会の出場を目指す候補選手を育成するため、

- ・記録会（4月）、合同練習会（5月）、合同合宿（6月）を実施。
- ・上記のほか、競技別に全国障害者スポーツ大会まで月2回程度練習会開催。
- ・全国障害者スポーツ大会後も1月・2月・3月に合同練習会を実施。
- ・練習会には出場選手だけでなく、来年以降に出場が期待される選手も練習に参加してもらうことで、競技の普及向上に努めている。

#### (3) 地域でつながるスポーツの輪推進事業（平成26年度終了）

障害の有無にかかわらずスポーツを通じた交流機会の提供および多くの障害者が身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりの促進ならびに若年層の障害者スポーツ競技人口の増加を図るため、体験型スポーツイベントを開催。

#### 【平成26年度実績】

##### ①地域でつながるスポーツフェスタ2014（14種目の体験ブースを設置）

○11月24日（月・休日） 長浜市民体育館 参加人数：291人

##### ②パラリンピック選手講演会とディスゲッターおよびポッチャ体験

○11月7日（金） 草津養護学校高等部生徒・教員約130名

講演講師：西山克哉 選手（ロンドンパラリンピック・セーリング出場）

##### ③スポーツ講習会とパラリンピック選手による講演

○11月13日（木） 長浜養護学校高等部伊吹分教室生徒・教員約30名

講演講師：田中浩二 選手

（シドニー・アテネ・北京パラリンピック・シッティングバレーボール競技出場）



(4) 障害者スポーツ推進事業（平成27年度から：文科省委託事業）

障害者が身近な地域でスポーツを楽しむ環境整備に向けた地域での障害者スポーツ普及の体制づくりやノウハウ作成に関する実践研究を実施し、障害者スポーツ競技人口の増加や選手発掘などを図るとともに、障害者スポーツを通じた共生社会の実現を目指す。

①地域での障害者スポーツの普及

- ・委託先 総合型地域スポーツクラブ（4団体）
- ・内容 障害のある人が身近な地域でスポーツを楽しめる環境を整備するため、障害者スポーツの実践を委託。

②大学と連携した障害者スポーツボランティアの育成

- ・委託先 びわこ成蹊大学
- ・内容 イベント開催を通じた障害者スポーツへの理解促進とボランティア育成を図るため、障害者スポーツ支援者の増加に繋げるとともに大学におけるボランティア育成手法などを整理。

③障害者のスポーツ参加促進実践研究委員会の開催

研究委員会を設置し、地域での障害者スポーツの実践を踏まえた普及体制づくりやノウハウ、障害者スポーツボランティア育成の実践を踏まえた育成手法などの研究を行う。

(5) 滋賀県障害者スポーツ協会新規自主事業（スポーツ振興基金活用）

①障害者スポーツアドバイザー設置事業

障害者スポーツアドバイザーを設置し、障害者スポーツに関する相談、県内のスポーツ用具の整備状況の把握、地域でのスポーツ教室等への指導者の紹介や障害者スポーツ指導の入門講座を開催するとともに障害者スポーツにかかる情報発信も行う。

②障害者スポーツ指導者養成事業

滋賀県障がい者スポーツ指導員協議会が開催する（公財）日本障害者スポーツ協会公認の初級指導員資格取得講習会の受講費用を補助することによりスポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブなどスポーツ関係者への指導者資格取得の推進を図る。

③障害のあるアスリート支援事業

○アスリート発掘

若年層のアスリートを発掘するため、特別支援学校等におけるトップアスリートによる講演会やスポーツ体験会を開催する。

○アスリート育成

障害者スポーツ競技クラブや団体等の組織化を促すと同時に、一般スポーツ競技団体との連携促進および全国大会先催県の視察など競技力向上に向けて取り組む。

○アスリート等への大会遠征費用助成

国際大会出場を目指し、全国規模で行われる選手権大会などに出場するアスリート・指導者の大会遠征費用の助成を行う。